

犬の熱中症対策は？

真昼の散歩避け こまめに水分補給

問 夏場は犬の熱中症に気を付けた方がいいと聞きました。どんな症状に注意が必要でしょうか。家ですべき対策はありますか。

答 熱中症は高体温や脱水によって生じる疾患で、重症化すると多臓器不全を引き起こすなど、命に関わります。高温多湿の環境に長くいたり、病気などで体の熱をうまく外に逃がせなかったり、過度

な運動をしたりーといった状況が原因で発症します。

症状としては、口を大きく開いて浅く早く呼吸する「パンティング」、多量のよだれ、足元のふらつき、ぐったりとする虚脱などが見られます。嘔吐おうとや下痢、舌や粘膜が真っ青になるチアノーゼが起きることもあります。

熱中症にならないために大切なのは、ま

ずはこまめな水分補給。常に新鮮な水を用意しましょう。温度は冷たくても、常温でも。犬が過ごす場所の温度管理も非常に重要です。室温は26度前後、湿度は50～60%が理想的。散歩は真昼を避けて、直射日光だけでなく、アスファルトの照り返しにも配慮してください。

熱中症の症状が見られた場合は、速やかに動物病院へ電話して相談を。病院へ連れて行く時は、ぬらしたタオルで体をくるんだり、保冷剤を脇や股またに挟んだりして、体を冷やししながら移動しましょう。

(中野 賢・県獣医師会員)

<月1回掲載します>

ペットに関する素朴な疑問や健康、飼い方についての質問をお寄せください。〒422-8670 静岡新聞社編集局「ペット質問箱」係へ。Eメール<seikatsuhoudou@shizuokaonline.com>や、右のQRコードで投稿フォームからも送信できます。全てにはお答えできず、直接回答もしかねますがご了承ください。

